

鳥羽なかまち暮らし

地域おこし協力隊として平成29年7月から活動していた佐藤創さんが6月末をもって3年間の任期を満了したことから、これまでの取り組みや鳥羽市での暮らし、今後の活動について紹介します。

企画財政課移住・定住係 ☎ 251227



佐藤 創 さん

HAJIME SATO

- 東京都あきる野市出身
- 京都精華大学芸術学部メディア造形学科映像コース卒業後、東京にある(株)TBS テックズのCG部に勤務、映像制作の仕事に携わる
- 平成29年7月から地域おこし協力隊として鳥羽なかまちへ移住
- 令和2年6月末をもって地域おこし協力隊を卒業

地域おこし協力隊として 移住してきた経緯

以前は東京のテレビ番組制作会社で働いていましたが、その頃からいずれは独立し、フリーランスとして映像制作の仕事をしたいと考えていました。

そんな時、地域おこし協力隊という移住に関する制度があることを知り、興味を持ちました。私たちがクリエイターの就職先の多くが東京や大阪の都市部に集中しており、はたして自分の仕事は地方で成立するのか不安ではありました。しかし、鳥羽に一度見学に訪れた際に鳥羽なかまち会の会議に参加する機会をいただき、そこで鳥羽なかまち会のまちづくり活動を目の当たりにし、自身のスキルを用いて、活動のPRのお手伝いができるのではと感じ、地域おこし協力隊に応募しました。

鳥羽へ来て変わったこと

以前は自宅と職場を行き来するだけで、一日中パソコンに向かってアニメやCGを作るだけの生活でしたが、やはり田舎は人間関係が濃く、鳥羽に来てからはさまざまなかたとコミュニケーションを取る機会が増え、友人や知人も多くなりました。

自分では自身の変化に気づきませんでしたが、周囲からは「明るくなった」と言われるようになりました。



町内会の一員として春祭りにも天狗として参加

一番印象に残っている 鳥羽でのイベント

鳥羽高校の授業で「鳥羽学」に参加したことです。

子どもの頃からひたすらものづくりを続け、前職や地域おこし協力隊の仕事でも何かを作るばかりでしたが、そのものづくりの知識や経験を高校で教えることができ、貴重な経験をさせていただきました。



鳥羽高校での授業風景

地域おこし協力隊としてのこれまでの主な活動

鳥羽ぐらし魅力情報発信担当として、鳥羽なかまちを拠点に地域の暮らしの中に潜在する魅力を動画などに編集したうえで、ウェブサイトや SNS などを通じて情報発信しました。



鳥羽なかまち会が住民主体で企画、運営した竹灯り。もちろん制作も住民と協力隊で行いました。



移住促進ポスター（平成 30 年度）。人形の制作、構図、写真撮影を手がけました。



移住・定住促進事業の一環として、制作した石鏡町のプロモーション動画「うみねこ いじかさんぽ」が、三重県広報コンクール（映像部門）で最上位の“特選”に選ばれました（令和元年度）。



なかまち会議の様子。今まで 40 回以上出席し、さまざまな企画を話し合ってきました。



鳥羽なかまちの通りに面する家屋の軒先に設置する屋号旗を 50 枚ほど制作しました。



年に数回行われる「鳥羽なかまちマーケット」のCMをアニメーションで制作しました。



地域おこし協力隊募集のチラシ



鳥羽なかまちメンバーのイラスト

活動報告

基本的には、鳥羽なかまち会の進めるまちづくり活動のお手伝いや、それらの映像ポスター制作による PR をしていました。

主な制作物として、なかまちマーケットをはじめとしたイベントのコミーシャルやチラシデザイン、屋号旗や竹灯りのデザインがあります。

また、鳥羽なかまち以外では、それぞれの地域のかたとも連携し、石鏡と答志島の紹介動画や移住・定住系の事業を PR するための動画やチラシの制作もしました。

佐藤さんが制作した動画を YouTube などでもご覧いただけます。



とばぐらし Facebook



恋する鳥羽 YouTube



現在リノベーション中

地域おこし協力隊 卒業後について

今後は「映像・アニメーションスタジオイエンスの塔」という屋号で活動し、映像制作を生業にフリーランスとして生活していきます。

また、空き家を購入したので改修を進め、仕事を受けるためのオフィスやスタジオとして使いつつ、傾合いを見計らってランチやコーヒー、パティ料理などを提供できる空間を作りたいと思っています。

こうして空き家を再利用し、新たな空間としてよみがえらせる事例が増えることで、空き家問題解消にも力添えできればと考えています。